

団体名	特定非営利活動法人 発達凸凹サポーターてくてく
活動テーマ	事故、災害等発生時における発達障害児への心理的サポート研修



日本は、地震や災害が多く、事故もいつ起きるかわからない。これらは予期することは難しい。私たちが関わる発達障害者は、健常者よりも予期せぬ事態が起こるとパニックに陥りやすい。また、場の雰囲気を読みにくい特性があるため、静かにしていなければならないときにも、悪気なく大声を出してしまうこともある。しかし、その障害は見た目からは判断が付きにくいいため、周りからは迷惑行為ととられてしまう。実際、大震災時には、自閉症の人が大声を発してしまうため、家族が周りに気を遣って避難所を使用できなかった話も聞く。さらに、パニック状態は連鎖しやすく、集団パニックとなると一気に防災力が低下する。発達障害者の行動は、なかなか理解されにくく非難を受けやすいが、周りの声かけや対応の仕方でも落ち着かせることが出来る。そこで発達障害児を取り巻く保護者や支援者に対して、発達障害の特性、防災訓練の仕方、リラクゼーションの仕方などについて、具体的な内容で研修を行った。

今回の研修では改めて発達障害の特性を知ることで、保護者や支援者の理解が深まった。また、阪神大震災時の発達障害児がどのような様子であったのか、また震災後どのような状況となったのかを神戸在住の児童青年精神科医・白瀧先生からお聞きすることで、保護者や支援者の不安感が軽減した。川村先生や池田先生の研修では、リラクゼーションの仕方を体験でき、学んだ内容を保護者や支援者自身が子どもたちに実践できた。おとなになるとなかなかできない防災訓練やAED体験も行え、有意義であった。

平成29年度は、研修自体を無料として、幅広く参加を呼び掛けることとする予定である。また、個別の相談会を実施し、災害だけでなくトラウマを抱える人々全般にアプローチしたいと企画している。